

温篤新聞

通巻156号



『医は仁術!?それとも算術?』

皆様は『医は仁術なり』という言葉をご存知でしょうか。この言葉は、江戸時代に貝原益軒という学者さんが書いた『養生訓』という本に、医療とは「仁愛の心を本とし、人を救うを以て志とすべし。我が身の利養をもつばらに志すべからず」という記された言葉に由来します。

これは、医療の根本には、あらゆる者を慈しむ心を持ち、人を救おうとする志を持つているべきで、自身の利得にばかり心を傾けていきません。という意味を表します。

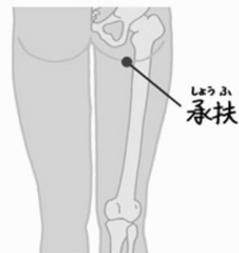
2年程前に新型コロナ感染症が世界的に流行し、多くの死者が出るようになりました。志高い医療関係の方々、未知の感染症に対し、まさに命懸けで取り組み人命の救助に励まれました。これを後押ししようと政治が舵を取り支援を開始し、少しでも医療環境が良くなるようにと協力金という形で様々な支援を打ち出しました。

しかし、せっかく素晴らしい協力体制を作っても、目の前のお金という物は、医の志を変えてしまうのか、高額な支援金は医を算術に変えてしまうケースが出てきて

今月のツボ

承扶(しょうふ)

「承」は、助ける・救う。力を貸して支える、転じて支えて保護する・うけたまわるという意味です。「扶」は、助ける・守る・救うの意味です。つまり、下肢の機能を助け、守るツボという意味になります。



場所は、うつ伏せに寝ると、お尻の筋肉のすぐ下に横ジワができます。

そのシワのほぼ中央に取ります。大腿部の内側から陰部にかけての痛みやこわばり、もの肉離れ、痔、便や尿の出が悪い場合などに用いられます。また、坐骨神経が骨盤の中から外へ出ていく場所なので、もの後ろから脚全体に痛むような坐骨神経痛の症状にも用いられます。

しまい、PCR検査を打ち出の小槌の如く利用する施設が出て来てしまったように思えます。

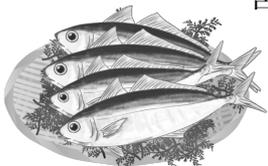
その中の一つに発熱外来があり、発熱外来というのは本来、新型コロナ感染の診断だけでなく、陰性の場合には、それ以外の疾患として適切な治療を施すべきなのですが、ピーク時の発熱外来の姿は、治療云々よりも検査して陽性・陰性だけに目が行ってしまっているような気がしました。

これも、以前はPCR検査1人すると約2万円以上の診療報酬が入ってきていたのも関係していたのではないかと考えてしまいます。

関係ないかも知れませんが、今年の4月からの診療報酬は半額以下となり、現状まだコレラやマラリアよりも厳しい感染症法の2類相当に属してい

医食同源 鰵

脳を活性化させるDHA(ドコサヘキサエン酸)を多く含みます。EPA(エイコサペンタエン酸)も豊富に含んでおり、血管を広げ、血液の流れを良くする作用があります。高血圧、動脈硬化、脳梗塞、心筋梗塞を予防する効果もあります。また、コレステロール値を下げるタウリンも含まれており、生活習慣病の予防も期待できます。



日本の未来を私たち自身で作ります。



二十四節気と七十二候

「くらしのこよみ」より

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

その抛り所となったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

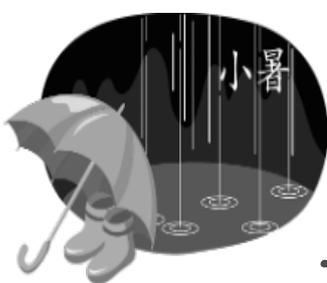
また二十四節気の一つ一つをさらに三区分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはだいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前が付けられています。

二十四節気

小暑

(7月7日)

すでに日は短くなる一方で、暑さはこれからが本番です。小暑と次の大暑の間を暑気と呼び、暑中見舞いを出すのもこの期間です。



『苦勞を通して愛情が育つ』

子供に幸せな人生を送って欲しいと願うならば、特に、乳幼児期に母親と子供が出来るだけ触れ合えるように努力することです。乳幼児期は母親の世話を受け、愛情を注がれることによって心が安定し、自分の周りの世界に対して「基本的信頼感」を得ます。

そのためには、まず母親自身の心を豊かにしなければなりません。例えば、美しい花や景色に感動する心を持つことなどを心がけましょう。明るくて思いやりのある親の姿を見て、子供たちは思いやりの心を育てていきます。

そして、親自身にとつても、子供を育てる苦勞を通して、自分の心が育っていきまます。育てる苦勞を通じて自分の心の中に、愛する心が育っていくのではないのでしょうか。

「一日一話」より

七十二候 (7月17日〜21日頃)

鷹乃学習(たかすなわちわざをなす)

日本で鷹といえば、オオタカを指すように、鷹狩りに用いられるなど、猛禽類の中では昔から人に身近な存在でした。

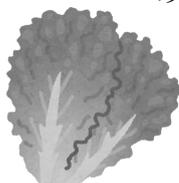
5・6月に孵化した雛はこの季節、巣立ちの準備に余念がありません。飛び方を覚え狩りを学び、独り立ちに備えます。オオタカは南西諸島などを除く日本各地に生息し、里山でも見られます。運が良ければ夏空に弧を描く雄姿に出会えるかもしれません。

旬のやさしい

レタス

丸く結球したタイプが一般的ですが、他にもサラダ菜、ロメインレタス、サンチュ、変わったところでは山クラゲなど、いろいろな種類があります。日本では歴史も古く、地面に近い葉から順次掻き取って食す「かきチシャ」という品種が平安時代から栽培されていました。

レタスの語源はラテン語で乳を意味する「lac」です。新鮮なものは切り口から白い液体が滲み出しますが、これが乳を連想させたのかもしれない。和名のチシャも「乳草」からきています。この白い液体の正体はポリフェノールの一種のラクチン。軽い鎮静作用と催眠効果があります。



7月

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

執筆余話

3年に1度の参議院選挙が7月に行われますが、そこに参加する政治団体『参政党』つてご存じですか？私もつい最近知ったばかりなのですが、詳しくは調べ切れてはいないので、政策の一つに「医療費の問題」を指摘しています。

当院でも常々お話ししています。が、命に関わるものや事故や怪我等の救急なものに関しては現代医学は素晴らしい医療ですが、生活レベルの慢性疾患には対症療法であるため長期服薬には疑問を呈しています。

症状ばかり診て患者さんを診ない薬漬けの医療に参政党は問題提起しています。私もこの利権ガチガチの医療問題には賛同しておりますが、数年後に長い物には巻かれ、算術の政党にならない事を願って、当院のホームページにこの内容のリンクを貼っておきましたので、ご興味を持っていただけたら、是非ご視聴ください。

